

教員養成サポートセミナーを終えて

龍谷大学 黒光美沙 同志社大学 中小路崇仁
京都産業大学 中西崇太 龍谷大学 西谷和也

1 実習校 城陽市立西城陽中学校

2 実習内容

(1) 職員会議

管理職の先生を中心に全体での連絡事項を話し、その後学年ごとに分かれて、時間割やレギュラーな事項を共有する。この職員会議に参加させていただき、一日の流れを把握した。

(2) 授業

ア 授業見学

自分の専門教科や専門教科以外の教科の授業を見学させてもらった。現場の先生の授業のスタイルを見て、自分ならどうするか考えながら受けていた。また、補助の必要な生徒をサポートする中で、生徒一人一人によって理解度が異なることを実感した。

イ 体育祭練習

主な練習内容はムカデ、ハリケーン、大縄で、限られた時間の中でクラスリーダーを中心に練習をした。競技のアドバイスだけでなく、リーダーを思いやる心を他の生徒に諭し、クラスがより良い方向に向くよう協力した。

(3) 学活

朝学活、終学活と一授業としての学活の3種類ある。朝学活は生徒にとって学校生活の始まりであり、担任の先生も生徒のやる気を引き出すために様々な話をされていた。私たちも実際にやらせていただいたが、必要事項を伝えるのも一苦勞で学級経営の難しさを垣間見ることができた。

(4) 給食

班ごとに席を合わせて給食を食べていた。私たちも一つの班に入れていただき、生徒と会話を楽しむことができた。

(5) 掃除

掃除場所は、教室、廊下、渡り廊下、トイレなどだった。集団生活する環境を生徒と共に綺麗にすることができた。

(6) 部活動

各部活動によって活動内容は異なるが、自分の得意なスポーツやこれまでの経験を活かして、生徒にアドバイスすることができた。生徒と何かを共有することで、距離がより縮まることを部活動を通して実感した。

3 実習を終えて

これまで生徒の視点からしか知らなかった学校を、教員の立場から見ることができた。約10年前の中学校生活を懐かしむ反面、いかに私たちが先生に支えられていたのかを実感し、教員の仕事の大変さを知ることができた。

また、生徒と関わる中で、生徒の笑顔を見たときや生徒に求められたりした時に、教員としての喜びを感じ、この仕事の魅力を身を持って経験することができた。この経験をいかして、今の自分に足りないことを補い、自分の良さをさらに伸ばしていきたいと思う。

宇治市立東宇治中学校での実習の報告

龍谷大学 足立啓輔
龍谷大学 國枝幸直
龍谷大学 橋本茉依

龍谷大学 弟子丸登陽將
京都女子大学 藤田菜々子
京都橘大学 榊瑞歩

1 実習校 宇治市立東宇治中学校

2 実習内容

東宇治中学校での実習では、各々指導の先生についていただき、中学校の教員の勤務内容の一部を体験いたしました。朝の職員会議や学年団の打ち合わせにも参加させていただきました。

授業では、主に見学やサポートに入る形で実習いたしました。2人の実習生は研究授業をさせていただきます。指導を担当してくださる先生の授業はもちろん、同じ教科の複数の先生の授業を研究させていただき、授業の導入、教材の使い方など様々な授業の工夫を学びました。さらに、専門教科の授業の他、特別支援学級の授業に参加させていただくこともありました。

学級の生徒たちとは、一緒に昼食を食べたり、清掃活動をしたりしました。朝学活では見学だけではなく連絡を任されていた実習生もいました。

また、実習の期間が体育大会の前後であったため、体育大会の準備や片づけ、運営の補助の仕事もいたしました。テントの準備、片付けやグラウンドの状態を整える作業のお手伝いをいたしました。本番では、決勝審判の補助をしたり、生徒を整列させたりしました。また、交代で交通整備をしていました。

3 実習を終えて

実習を通して、中学生と関係を築くことの難しさとコミュニケーションを取ることの大切さを学びました。各々の教科の授業を見学することが主だったため、はじめは学級の生徒との関係を築くことに難しさを感じていました。しかし、体育祭の練習や、朝の挨拶、廊下ですれ違う生徒とのコミュニケーションなどを通して生徒と打ち解け合うことができました。その後は、学級活動や授業でも生徒と関わりやすくなり、徐々に生徒のことを知っていくことができました。この経験から、コミュニケーションの大切さを感じました。

実習を終えて実習生全員が課題だと感じているのが、「叱る」ということです。大学生の私たちは、中学生と年齢が近く、話しやすいというメリットがあります。その反面、教師は教育をしていかなければいけない立場であるため、友達関係のような関係になってしまうのは良くないという意見を持つ実習生が多いです。さらに、叱り方一つを取っても、人権や命に関わる場合と個人が直せばよいことの叱り方の違いやその行動の背景を考えたとき、叱ることが必要なのか、もしくは相手を気遣った問いかけをすることが必要なのかを見極める必要があることも知りました。そのため、叱る必要があるときには適切に叱ることができる技量を身に付けたいと考えています。

また、授業を見学して気づいた工夫を出し合うと、授業の初めに生徒を落ち着かせて授業に向かわせる工夫がたくさん見られたという意見が多く出ました。たとえば、毎朝の朝読書の時間、授業前の号令、国語での復習テストの実施、英語での洋楽を聞く時間などが挙げられます。その他にも、生徒が発言しやすい工夫や、わかりやすくしたり、興味をひいたりするための工夫をたくさん学ぶことができました。これから先、大学で教科教育法などを学ぶ中で、今回の実習で学んだ工夫に加え、自分ならどのような工夫ができるか考え、実際に教壇に立った時に生かしたいと考えています。

教員養成サポートセミナー（向日市立向陽小学校）

龍谷大学 浅賀美穂

大谷大学 飯田和志

1 実習校 向日市立向陽小学校

2 実習内容

実習期間中、それぞれが一つの学級に集中して入り、教師の補助や児童の学習補助を行った。勉強面だけでなく、生活面の指導にも携わり、“教師の仕事”のリアルなものを再確認した。

- (1) 学年による指導方法の違い：一年生と六年生に焦点を当て、指導方法に着目して考えた。教師への依存度、異性との関わり方、教科数、協調性の持ち様などに相違点が見られた。六年生が下級生（主に一年生）の清掃を手伝うことで、六年生は上級生としての自覚を持ち、リーダーシップをとることを学ぶことが出来る。それとともに、他学年との交流を深めることで、協調性を身に付けることができることが分かった。
- (2) 他学年との交流：六年生が下級生（主に一年生）の清掃を手伝うことで、六年生は上級生としての自覚を持ち、リーダーシップをとることを学ぶことが出来る。それとともに、他学年との交流を深めることで、協調性を身に付けることができることが分かった。
- (3) 朝の挨拶活動：朝、校門に立って児童の登校を出迎え、挨拶する。朝一番に挨拶をすることで、児童の様子を確認でき、コミュニケーションも取りやすくなる。挨拶の大切さを感じることができた。
- (4) 給食指導：食べることも児童にとって大きな学びである。“食育”という言葉があるように、「食」に関する知識を習得し、健全な食生活を実践することができるよう、給食においても指導を欠かしてはならない。
- (5) 清掃指導：普段の生活でごく普通に行われる活動であっても、児童にとっては学びにつながる。ほうきやちりとりを使い方、雑巾の絞り方など、生活の基礎となる学習も学校がサポートしていることが分かった。
- (6) 教師の補助：学級に入り、担任教師の活動をリアルに学びながら、主に丸つけや採点の手伝いを行ったり、小テストの補助を行う。また、印刷物の準備や模造紙作成などの教材準備にも携わった。
- (7) 体育大会の補助：9月30日に行われた体育大会に向けて、児童の練習補助を行い、当日は、体育大会運営に携わった。グラウンドのライン引きや、備品の管理などを行った。

3 実習を終えて

実際に実地実習に行く機会をいただき、現場でしか感じ取れない学校の現状を知ることができた。同時に、児童・先生方との関係の築き方を学び、教師を目指す自分にとって大いにためになる実習期間であった。朝は早くから出勤し、配布物の準備や教室の整頓を行い、夜は遅くまで残り、翌日の教材研究や指導案作成など様々な仕事をこなす先生方の姿を知り、教師の過密な仕事ぶりを痛切に感じたとともに、教師になるということをも改めて考え直す機会となった。